第５学年　図画工作科学習指導案

１　**題材**　「曲げ・ねじ～オブジェ～」
（曲げてねじって）

２　**指導観**

○　本題材は，環境と作品が共によくなるように環境と作品の響き合いを意識させた上で，土粘土が持つ高い可塑性を生かしながら，粘土の板を曲げたり，ねじったり，つけたりしながら表現することをねらいとする。

本題材がもつよさは以下のようなものが考えられる。

・　環境から受けるイメージを変える作品づくりを意識させることにより，表現活動への意欲を喚起させ，鑑賞活動まで持続させることができる。

・　粘土の特徴を生かした作品づくりと環境との響き合いを意識した作品づくりの２つの観点から表現意図をもち，空間構成をすることができる。

・　粘土の板を立てたり，曲げたり，のばしたり，つけたりして，表現意図にそった工夫をする表現活動ができると考える。

・　環境の中での鑑賞活動を行うことにより飾る事への意欲を引き出すことができる。

○　本学級の子どもたちは，一学期に取り組んだ「トローリかたまれ」では，芯材を使用し，様々な形で固定させた布が乾燥するに従って固まり，形を留めるという液体粘土の特徴を楽しみながら，表現意図に沿った表現活動を行うことができた。１学期に行ったアンケートの結果によると「作品をつくった後，家に持って帰ってどのようにしていますか」という項目では「捨てる」が　％，「一定期間取っておく」が　％，「飾る」という児童が　％という結果が出た。捨てると答えた児童の理由としては，「邪魔になる」や「とっておいても使うことがない」や「どこに飾ったらいいかわからない」という理由が多数をしめた。「一定期間取っておく」「飾る」の多い理由としては，「親が取っておいたり，飾ったりする」とのことだった。

以上のことから表現意図を持つことはできてはいるが，その表現意図の中に，環境の中に作品を飾るという意識がないため，作品を家庭に持ち帰ると意欲がとぎれてしまい，捨てたり，愛着がもてなかったりと，図画工作が生活の中になかなか根付くことができていないといえる。

このことから，題材との出会いで環境を含めた表現意図を持たせたり，作品によって環境から受けるイメージを変えることができるという事に気付かせることにより，意欲を喚起，持続させたりすることが必要であると考えた。

○　本題材の指導にあたっては，これまでの図画工作科の学習において使用してきた油粘土の特徴について想起させることにより，土粘土の特徴へとつなぐ。土粘土を使った材料体験をする中で油粘土と土粘土のちがいを考えさせ，土粘土の特徴を確認させる。（土粘土は，焼成することによって，形を半永久的に留めることができ，日常生活の中で使用することもできる。さらに，彩色も行うことができる。）

つぎに，場所から受けるイメージと，場所の中に作品がある場合のイメージとで鑑賞させ，作品を飾ることによって場所から受けるイメージを変えることができるということに気付かせる。また，作品のどの要素が場所から受けるイメージを変えたのかを明らかにしていく。（形，大きさ，質感，色など）

そして，場所から受けるイメージを考えさせながら，作品によって変えたい場所を探させる。また，その場所から受けるイメージをどのように変えたいのかを理由もは

っきりとさせながら，図工ノートに書かせ，場所から発想したことをアイデアスケッチさせる。

表現段階では，表現意図に沿った表現をさせるために，児童が見付けた土粘土の特徴を資料として提示して表現活動を行わせる。その際，児童間で自由に交流活動を行い，友達の表現意図を考えさせることにより発想を広げたり，自分の発想のよさに気付いたりすることができるように，４人が向かい合いながら活動することができるような場の設定を行う。また，児童が表現意図を明確にもちながら表現できるように，図工ノートの記述や児童の活動の見取りをもとにして，個に応じた支援を行う。

題材の終末の鑑賞活動では，毎時間書かせた図工ノートをもとに活動をふり返らせた後，場所の中に作品を飾った上での鑑賞活動を設定する。

このような活動を通して，自分の作品が場所から受けるイメージを変えることができることに気づき，日常生活の中でも作品を飾って環境から受けるイメージを変えてみたり，表現したりすることができるようにする。

３　単元目標

○　環境を意識した表現活動をしようとすることができる。
（造形への関心・意欲・態度）

○　環境と作品が共によくなるように，土粘土を加工させながら表現を工夫することができる。（発想や構想の能力）

○　表現意図が表れるように，土粘土を伸ばしたり，ねじったり，つけたりすることができる。（創造的な技能）

○　環境の中に作品を飾ったうえでの鑑賞活動の中で，作品がある時とない時での場所から受けるイメージの違いに気付くことができる。また，自分や友達の作品を見て，表し方のよさや違いに気付き，交流することができる。（鑑賞の能力）

4　題材における指導事項・評価規準・指導方法（全７時間）

	学習活動	関意	発構	技能	鑑賞	具体の評価規準	指導事項	指導方法
表したいことを明確にする 本時２／２	１．土粘土の特徴を体験することによって，高い可塑性など材料の特徴を生かした造形活動への意欲をもつ。 ２．見付けた土粘土の特徴を交流しあう。 （1時間） ３．環境の中での作品の効果について考える。 ４．作品によって変えたい場所を見付ける。 （1時間）	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		 ○ ○ ○	・　土粘土の特徴を発見しようと積極的に活動している。（関） ・　土粘土の様々な特徴を試している。（発） ・　作品が場所へ与える効果を感じようとしている。（鑑） ・　作品によって変えたい場所を意欲的に探している。（関）	○　土粘土の特徴を知ること （曲げる，折る，伸ばす，丸める，ねじる，立てる，切る） ○　土と土を接合の仕方を知ること （ドベの使用法） ○　作品があることで場所から受けるイメージが変わるということを感じること ○　場所から受けるイメージをどのように変えたいのかを考えること	・　油粘土の特徴について発表させる。 ・　土粘土を使い，できる形を試させながら，土粘土の特徴を確認させる。 ・　見付けた特徴について，児童に実演させながら説明させる。 ・　接合の仕方については，教師が実演する。 ・　校内のある場所に作品がある場合とない場合での鑑賞をさせる。 ・　その際，作品を飾ることで場所から受けるイメージが変わったことに気付かせる。 ・　次に，作品のどの要素が場所から受けるイメージに変化を与えたのかを明らかにさせていく。 （形，大きさ，質感，色）
自分の表わし方を決める	５．場所から受けるイメージをどのように変える作品にするのかを図工ノートにアイデアスケッチをする。 （1時間）	○	○		○	・　場所から受けるイメージを意識したアイデアスケッチを意欲的にしている（関） ・　場所から受けるイメージを変えるために土粘土の特徴を生かしたアイデアスケッチをしている。（発）	○　場所から受けるイメージを考えること ○　土粘土の特徴を生かした作品の発想をすること	・　児童が選んだ場所の写真を用意し，図工ノートに添付させ，常に場所から受けるイメージを振り返れるようにしておく。 ・　場所から受けるイメージを意識させることができるように各自，選択した場所に行かせて発想させる。 ・　環境から受けるイメージや作品を飾ることでどのように変えたいのかをアイデアスケッチで表現させる。

自分の表わし方で表わす	6．土粘土を使って，場所から受けるイメージを変えることを意識した表現活動を行う。 (2時間) 7．彩色による，場所から受けるイメージを変えることを意識した表現活動を行う。 (1時間)	○ ○	 ○	○ ○	 ○	・　場所のイメージを変えるために土粘土の特徴を生かした表現をしている。（発） ・　自分の表したい思いに合う表現をしている。（技） ・　場所のイメージを変えるために彩色による表現をしている。（発）	○　自分の思いにあった表現の工夫をすること ○　土粘土の特徴を生かした表現をすること ○　自分の思いにあった彩色を行うこと	・　自分が選んだ場所の写真を見ながら活動をさせる。 ・　場所を見に行きたいという児童には，随時行かせる。 ・　児童が見付けた土粘土の特徴をまとめた資料を提示する。 ・　図工ノートの記述や児童の活動の見取りをもとにして，個に応じた支援を行う。
鑑賞する	9．お互いの作品を鑑賞し，よさや美しさを認め合う。 (1時間)	○			○	・　自分の作品を見て，場所から受けるイメージから発想した表し方のよさや美しさを見付けている。（鑑） ・　互いの作品を鑑賞する活動に，意欲的に取り組んでいる。（関） ・　友達の作品を見て，作品のよさや美しさを見付けている。（鑑）	○　自分なりの鑑賞の視点をもって作品を見て，面白さや楽しさを見付けること。 ○　友達の場所を含めた表現意図のよさや美しさを進んで見付けること。	・　ひとつの作品を全体で鑑賞し，環境の視点を持たせる。 ・　友達の場所を含めた表現意図に気付くことができるグルーピングを行う。 ・　友達の作品が選択した場所に飾られることによってどのような思いが伝わってくるのかを交流させる。

５　本時

平成 22 年 10 月　日(金)　校時　図工室

６　本時目標

○　作品を飾ることによって場所から受けるイメージが変わるということに気付くことができる。（鑑賞の能力）

○　場所から受けるイメージをどのように変えたいのかを考えながら，作品によって変えたい場所を意欲的に探すことができる。

（関心・意欲・態度）

７　授業仮説

導入段階において，場所から受けるイメージと，その場所に作品を飾った上での場所から受けるイメージを鑑賞し，交流し合う場の設定を行えば，作品によって場所から受けるイメージが変わったことに気付くことができ，表現への意欲をもつことができるであろう。さらに，場所から受けるイメージを考えさせながら自分が変えたい場所を探させ，場所から受けるイメージをどのように変えたいのかを図工ノートに言葉で表現させる手立てを取れば，表現意図を明確に持ち，表現への意欲をつなぐことができるであろう。

８　準備

○　参考作品

○　図工ノート

９　本時の指導の考え方

本時は，作品によって場所から受けるイメージを変えることができることに気付き，場所から受けるイメージを考えながら，作品によって変えたい場所を意欲的に探すことがねらいである。

本時の指導にあたっては，導入段階で，前時に学習した土粘土の特徴を想起させ，本題材はその土粘土の特徴だけを生かした表現活動ではないことを確認する。展開段階 1 では，校内のある場所へと移動し，その場所から受けるイメージと，その理由を発表させ，交流させる。その中で，発表の言葉を整理しながら，場所から受けるイメージが作品を飾ることによって変わったことに気付かせる。

さらに，参考作品が場所から受けるイメージを変えるという視点から発想し，表現された作品であるということを話し，今回の題材は，場所のイメージを，土粘土を使用した作品によって変えるということをねらいとしていることを中心に本時のめあてを確認させる。

展開段階の２では，場所を探す視点を持たせるために，どこを変えたいと思っているのかと理由を数名発表させ，その後，作品によって変えたい場所を探しに行かせる。その際，様々な場所から受けるイメージを考えさせ，その場所から受けるイメージをどのように変えたいのか，その理由も言葉で図工ノートに書かせる。教師は各場所をまわり，場所の用途やそこを普段どのように使用しているのかを想起させる言葉かけを行い，イメージしやすくさせる。次に，場所から受けるイメージをどのように変えたいと思っているのかを交流させ，友達の意図のよさを考えさせ，場所からの発想を広げさせる。

最後に，場所のもつイメージを表現段階の発想へとつなぐことができている児童を図工ノートの記述から見取り，発表させ，場所からの発想を次時の表現への発想へと広げさせる。

10　本時学習における指導事項・評価規準・指導方法　（本時２／７）

	学習活動	具体の評価規準	指導事項	指導方法
導入 2 分	1．前時までの学習活動を振り返る。	・　図工ノートを見ながら，前時までの学習活動について振り返っている。	○　前時までの学習活動を振り返り，本時の学習に臨こと。	・　図工ノートを見ながら，土粘土の特徴を確かめさせる。
展開 1 13 分	2．本時のめあてを確認する。 (1) 校内のある場所から受けるイメージと，その場に作品を飾った後，受けるイメージを交流する (2) 本時のめあてを確認する。 めあて どこをどう変えたいのかを探そう	・　作品を飾ることによって場所から受けるイメージが変わったことに気付くことができる。（鑑） ・　本時のめあてを確かめ，本時学習の見通しをもっている。(関)	○　作品を飾ることによって場所から受けるイメージを変えることができるということに気付くこと。	・　校内のある場所に作品がある場合とない場合での鑑賞をさせる。 ・　作品を飾ることで場所から受けるイメージが変わったことに気付かせる。 ・　作品のどの要素が場所に変化を与えたのかを考えさせ，場所が持つ要素と作品との関係に気付かせる。 作品の要素（形，大きさ，質感，色など） 場所の要素（光，影，明るさ，風，温度，色，広さなど） ・　場所から作品の発想をしたということを参考作品と場所の提示からおさえる。
展開 2 3 分 17 分 5 分	3．作品を飾ることによってイメージを変えたい場所を探す。 (1)場所のイメージを変えたい場所について交流させる。 (2)場所から受けるイメージを考えながら作品によって変えたい場所を探す。 (3)場所から受けるイメージをどう変えたいのかを交流させる。	・　友達が変えたい場所と思った視点を考えることができる。（鑑） ・　場所から受けるイメージを考えながら意欲的に場所を探すことができる。（関） ・　場所から受けるイメージをどう変えたいのかを思い浮かべることができる。（発）	○　場所探しの視点を明確にもつこと。 ○　場所から受けるイメージを感じながら場所探しをすること。 ○　場所から受けるイメージをどう変えたいのかを思い浮かべること	・　場所探しの視点を明確にもつことができるように数名発表させる。 ・　様々な場所から受けるイメージを考えさせる。 ・　場所から受けるイメージをどのように変えたいのか，その理由も言葉で図工ノートに書かせる。 ・　教師は各場所をまわり，場所の用途やそこを普段どのように使用しているのかを想起させる言葉かけを行い，イメージしやすくさせる。
終末 5 分	5．本時学習の感想を聴き合い，学習のまとめをする。	・　場所から受けるイメージをどのように変えたいのか理由を確認し，次時へ発想を広げようと言葉で図工ノートに言葉で書いている。（関）（発）	○　場所から受けるイメージをどのように作品で変えたいのかを確かめること。	・　図工ノートへの記述から作品の発想へとつなぐことができている児童に発表をさせる。